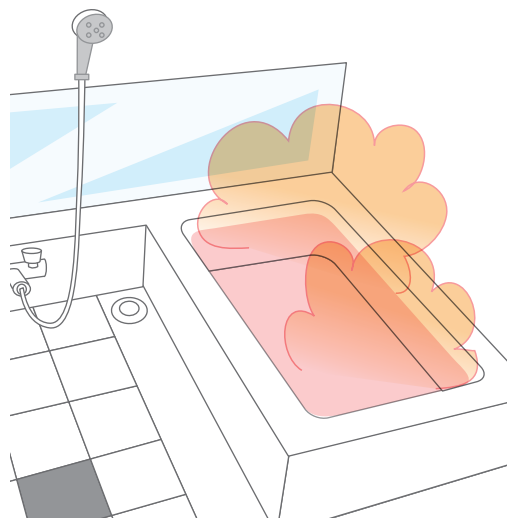


# 安心講座

このコーナーでは、安全で安心な住まいと建物のために、防犯・防災やバリアフリー、機器設備の改善などの情報をお届けします。今回は高齢者に配慮した住まいづくりについてまとめました。



## 高齢者の家庭内事故 暮らしの中で遭い、重症化

### 死亡原因の最多は「やけど」 お風呂の湯温に注意を!

独立行政法人国民生活センターが全国20カ所の協力病院を通じて収集した事故情報から、最近5年間分の「高齢者の家庭内事故」について分析したところ、「女性が多い」「重症化しやすい」「高齢になるほど骨折が増加する」といった高齢者特有の傾向がみられるということです。我が国は、4人に1人が高齢者という「高齢者大国」。賃貸住宅を含めた住まいも、バリアフリー化やユニバーサル化が急がれています。

#### ▼「高齢者の家庭内事故」の傾向は?

国民生活センターの分析調査は、平成20年9月に公表されました。20歳以上の事故事例は21,860件あり、65歳以上が6,569件(30.1%)、65歳未満が15,291件(69.9%)でした。

これらを年齢層別に見ると、住宅内(敷地内を含む)での事故発生率は、65歳未満は53.4%であるのに対し、65歳以上は63.3%で、年齢が上がるにつれ、住宅内での事故割合が増えることがわかりました。

そこで、住宅内で起きた65歳以上の事故、計4,185件を「高齢者の家庭内事故」として分析していくと、次のような傾向がありました。

- 性別・年齢別…事故者は女性が多い。
- 危害程度…年齢とともに重症化する。
- 危害内容…半数は打撲・挫傷である。骨折は65歳以上は2倍以上多い。
- 危害部位…4人に1人は頭部に危害を受けている。
- 死亡原因…16件中12件が「やけど」である。
- 発生場所・事故時の行動…何気ない「歩行中(階段を含む)」が3割を占める。
- 危害の原因商品・設備…階段、床、ベッド、浴室、包丁の順に多い。

#### ▼国民生活センターからのアドバイス

国民生活センターではこれらの分析調査を受けて、高齢者の家庭内事故を防ぐために、次のようなアドバイスを行っています。

##### ○階段や床での転倒・転落事故

- ・段差をなくす工夫をする。玄関では、段差を小さくするための式台などを置くと良い。

- ・階段、廊下、玄関、浴室などには手すりを設ける。
- ・階段、廊下、玄関などには明るい照明や足元灯をつける。
- ・居室は整理整頓をし、床や階段などにつまずきそうな物を置かないようにする。
- ・すべりやすい靴下やスリッパははかないようにする。

##### ○浴室での溺死、やけど

- ・心臓などに負担をかけないように、家族が入浴した後やシャワーで給湯して浴室を暖めてから入浴する。
- ・また、冬場は脱衣場も暖房して脱衣場と浴室の温度差を減らすようにする。
- ・給湯やシャワーの湯温が熱くなりすぎないようにする。

##### ○屋根や脚立からの転落事故

- ・屋根や脚立、はしごを利用して高所でする作業はなるべく本職の人や若い人に頼む。
- ・また、一人での作業は絶対に避ける。

##### ○衣類に着火する事故を防止する

- ・袖や裾が広がった衣類は火がついても気づきにくいので注意する。
- ・火が燃え広がりにくい防災性のパジャマ、エプロンなどを利用するのも効果的である。

##### ○窒息事故

- ・食事の際は、お茶や水を飲んで喉を湿らせてから少しずつ、ゆっくりよく噛んで食べる。
- ・餅など粘りのある食品を食べる場合は小さく切って食べる。
- ・周りの人は、急に話しかけるなどしてあわてさせないように気をつける。

##### ○もの選びの工夫

- ・高齢者向けの安全性の高いもの、使いやすく工夫されたユニバーサルデザインのものも上手に利用する。